

令和三年の夏



入来院 重朝

今年も高校野球の季節がやって来た。

各県代表が夏、甲子園にやって来て、勝負する。テレビのおかげで、みていてあきることがない。全くうまいものを発明したものだ。日本人は天才である。

各県代表は皆いい顔をしている。日本男児ここにありというおもむきである。

今、戦争がないので、オトコの子はいわゆるハレの場がない。昔は、男子は、いっぱしのオトコは五体満足であれば兵隊に採られた。つまり世界は弱肉強食の時代であった。今はどうか。本質は変わらない。鉄砲相打つ斬壕

戦の時代ではなく、今はボタン一つ相打つ顔の見えない戦争である。人類が生きのびている限り、当分平和は世界に訪れない。つまり人類が皆日本人化しない限りである。

日本人はなぜ皆いい顔をしているのか、つまり影がないのだ。心に鬱屈するものがない。あいつに勝とうとする卑しい顔ではない。勝負は一時のモノ。決まったあとは礼に終わり、サワヤカに別れる。

日本人は勝負ゴトが大好きである。囲碁将棋を見ていればよくわかる。外人が争いごとが好きなのは、昔狩りが生業だったからだろう。いい狩り場を取ったものが勝ちだったのだ。

日本人は豊かな自然環境に恵まれ、しあわせであった。天照大御神からずっと我が国には女子が世界の主であった。それは今でもずっと続いている。家のサイフは女房殿が握っ

ているのだ。こんな国は世界にはない。モメ
ゴト争い事はきらいである。

世界中がだんだん日本化しつつあるよう
だと私は思っているが、ホントにそうなるこ
とを願っている。

(炉ばたセイ談庵主)



庵ノ坂の石敢当 (伝統的建造物群保存地区・入来麓)